

しらおい再発見

地域学講座

6 萩野・北吉原地区



白老港(漁港区)

しらおいのまちを歩いてみませんか

2017年3月

民族共生象徴空間整備による

白老町活性化推進会議

6 萩野・北吉原地区

内 容 萩野公民館から北吉原海岸、旧大昭和地区（東西社宅、旧体育館）、十二間道路、萩野小・白翔中、北吉原八幡神社
萩野駅、富岸地蔵尊、萩野神社ほかを歩きます

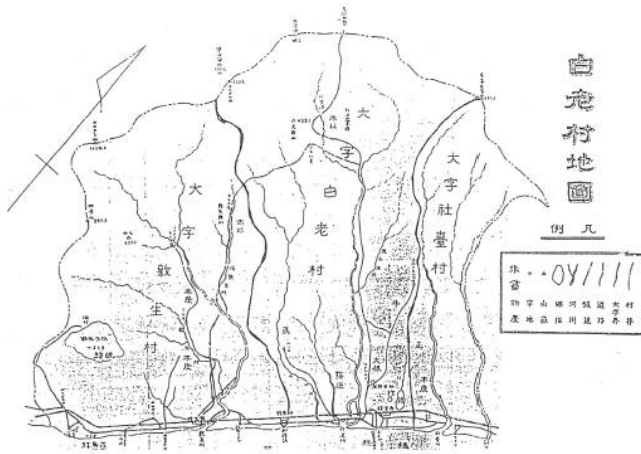
ルート ①萩野公民館 ⇒
②北吉原海岸 ⇒
③旧大昭和地区（東・西社宅、旧体育館）
④十二間道路 ⇒
⑤萩野小学校・白翔中学校・萩野駅・富岸中央海上地蔵尊
⑥萩野神社

萩野の生い立ち、地名の由来

* 萩野地区は、昭和14年の字名改正前までは「知床」と言った。

- ・ シレトックはアイヌ語で山の出崎の意。敷生川とウヨロ川の間のお山の出崎として名づけられた。一帯の低湿地の中に低い丘陵が長く伸びたその先端の場所（丘）を指したものだ。
- ・ 萩野の由来は、「時は明治14年9月4日朝、萩の花朝霧を含んで咲きたる野原を眺められ御感あり、萩野と命名せらる。」（大正12年発行『白老』より）というように、明治14（1881）年9月4日朝、明治天皇巡幸の折、この地に立ち寄られ、朝霧を含み野原一面に輝く萩の花を眺め賞したところからきている。

また、白老が大字三村（社台村・白老村・敷生村）に分かれていた頃には、知床は白老村と敷生村の大字境に位置し敷生村に入っていた。知床は、知床駅前地区と敷生本村（コタン）の両地区に分かれていた。

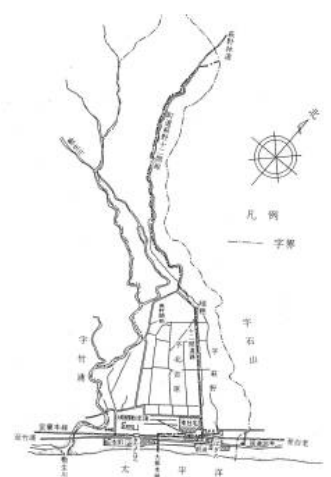


① 知床駅前地区と敷生本村（コタン）地区

* 知床駅前地区（現荻野駅周辺）は、明治33（1900）年までは無人の森林原野。同34年11月に空知から黒田恒蔵が、次いで40年には藤川栄吉が移住し、42年10月、知床駅ができ、敷生コタンより沼崎英男が来住し運送業を開始してから人口が増加した。大正10（1921）年4月、敷生小学校の知床特別教授場が建てられた。

昭和（1936）年頃には76戸341人の人口があった。しかし、その頃でも今の十二間道路は湿地帯で、人馬とも歩くことのできる場所ではなかった。

一方、明治の頃まで禅照寺付近を指したコタン地区は、元無人の砂地海辺であったが、正徳年間（1711-1715年）、日高佐溜太（サフト）からアイヌの人たち数戸の移住があった。慶応3（1867）年、南部から富士源吉が移住（「山三」いう旅人宿経営）し、次いで明治4（1871）年岩手県人紺野助八・甚作が移住（後にクッタリウスに移住）し、逐次人口が増加した。



しかし、同30（1897）年2月に現在の場所へ敷生駅（竹浦駅）ができてから暫時人口は減った。昭和11年頃には、メップ（竹浦）と本村の両集落を合わせ90戸402人の人口であった。

② 萩野地区の発展と北吉原地区との字界

* 昭和14年の字名改正で前記2地区を一つにして萩野となり、さらに大昭和製紙(株)白老工場の操業開始により人口が急増、同40(1965)年10月10日から萩野と北吉原の2字に分割された。

③ 萩野の稲作

* 萩野の稲作は厚真から入植した大浦喜太郎・イソ夫妻による手掘りの灌漑用水作業から始まった。知床土功組合(志賀兼治村長(組合長))も大正11年に設立されるなど奨励され、十二間道路の両側に水路を設け、掘り上げた土砂を道路に盛り上げ人馬が通れるようにして、造田も着々と進み、広い原野が立派な水田になった。このように苦心惨胆してきたが、自然環境の劣悪と時代の流れにより、昭和55年の樋江井正一所有の水田地を最後に姿を消した。

④ 知床に待望の駅

* 明治25(1892)年8月1日、北海道炭鉱鉄道(株)により、室蘭・岩見沢間に鉄道が開通。同42(1909)年10月15日には知床駅が開設され、一般貨物の取り扱いが始まった。一方、大正4(1916)年8月からは旅客取扱いとなり、人口が徐々に増加し始めた。



* 昭和14(1939)年、字名改正で知床が萩野となり、それにより同17年4月1日から駅名は萩野駅に改称された。

・ 昭和9年の白老村勢によると、年間乗車人数18,294人、同降車人数18,304人、1日平均100人、年間貨物発送3,100t、同貨物到着1,206t、1日平均発着11.8tとあり、当時

としては盛況であった。その後、大昭和の社宅、公営住宅等が建ち、商店が増え活気がみなぎり、十二間道路の踏切往来が激しくなった。昭和46年8月には全長50mの跨線橋が供用開始された。また、同53年5月の鉄道電化工事とともに駅構内にも跨線橋が完成した。昭和62年4月からは民営化しJR萩野駅となっている。

⑤ 緑泉郷バスの運行

* 十二間道路中心に昭和43年頃から温泉開発が進み、温泉付宅地造成が始まり全道的に分譲販売された。永年不毛の湿地帯として顧みられなかったこの地に多くの人々が居を構え、急速に新興住宅団地が形成され伸展した。しかし、公共輸送機関がなく、国道36号線沿いの萩野市街地まで2～3Kmあり、路線バス運行への要望が高まった。

昭和54年11月から道南バスが1日3往復の運行が始まった。

⑥ 滝川開拓団

* 昭和8～9年頃滝川方面より現日本製紙裏側から旧グリュエネ温泉付近にかけての原野一帯に佐藤林兵衛、田中安太郎、長谷川竹松、早弓留吉、福田由松、岩崎熊太郎、安達見佐吉らが入植した。

⑦ 萩野開拓団

* 昭和21年から同34年までの間に竹浦、萩野、白老の3地区に72戸が入植した。21年度の萩野地区入植者は、泉家一、大西勇、関勝三、田中稔、佐藤知之、早弓辰美、杉田定作、杉田光弘、榎本清、福田由美らが入植。同25年には、入植したそれぞれの地区に開拓農業協同組合（開拓農協）が組織され、萩野開拓農協の初代組合長には泉家一が選出された。その後28年に白老村開拓農業協同組合が設立され、統合された。

⑧ 昔の萩野前浜



* 大正時代、知床前浜は石河源次郎の漁場が1軒あるのみだったが、当時は鰯が大漁で、働く人たちは

みな敷生コタンから知床前浜に移り、30軒ほどが軒を連ね商店も出来て前浜は賑やかになった。砂浜には

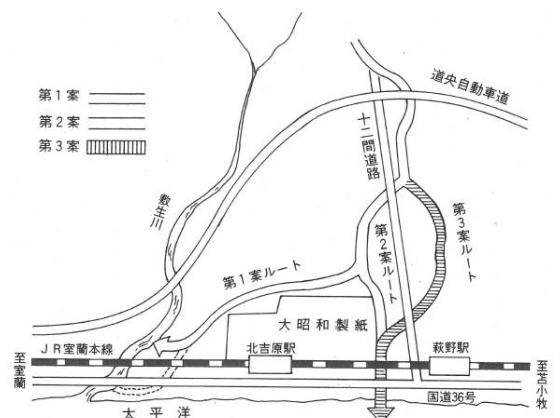
線路が敷かれ、イワシをトロッコで大きな釜場に運び、釜で炊かれ箆で干され、俵詰めされて貸切貨物で本州方面に肥料として発送された。

また、魚油も1斗缶に詰められ貨物で発送された。前浜には魚市場もできて、タカノハ、ヤマブシ等の大きなカレイ類、タコ・カニなどがたくさん獲れた。夕方5時くらいになると、追分・早来・苫小牧・室蘭方面から20人位の仲買人が集まりセリが始まる。前浜には萱葺の小屋があってポロト湖の氷がおがくずの中で保管されていた。

さらには荷造専門屋や運送業者がおり、競られた魚はすぐに発送されるなど、当時の前浜は村内一の賑わいであった。なお、石原漁場は昭和7年頃に久安漁場となり、日本油脂(株)の漁場へと移行した。

⑨ 水害問題

* 十二間道路を挟む萩野と北吉原の両地域は水害常襲地帯で、再三にわたり洪水被害に悩んでいた。昭和62年8月26日の大水害を契機に、旭町、萩野、緑泉郷、朝霧、瑞穂、緑泉郷一



区・二区、あけぼの、いずみ、ゆうかり、バーデン、太平洋、大昭和自治会の各町内会が一致して「白老緑泉郷地域排水対策期成会」を9月14日に結成。町と歩調を合わせて国・道に抜本的解決の陳情運動を展開し、翌63年11月にルートが決定、平成2年度から工事が着工された。現在、フシコベツ川排水路として整備が終わっている。

北吉原地区の生い立ち

① 地名の由来

* 字北吉原は、昭和40年9月に萩野と分割し10月10日より施行された地名である。それまでは知床の一部であり、同14年の字名改正では萩野に属していた。同35年の大昭和製紙(株)白老工場の建設により人口が急増し、字の分割となった。

・ 同本社工場が静岡県吉原市（昭和41年11月1日に富士市、富士郡鷹岡町と合併し、富士市となった）にあったことから北海道の頭文字を付し北吉原とした。

昔の大字敷生村の区域は、現在の萩野、北吉原、竹浦、虎杖浜の範囲で、その中の北吉原が明治の頃はシキウ本村といわれ、本来のシキウは現在の禅照寺付近を指した。後に知床に入り、萩野に変わり、北吉原が誕生した。

② 敷生コタンの漁場

* シキウコタンの前浜に大きな漁場として上山漁場、平田漁場が大正後期にあった。平田漁場は後に相吉漁場へと変わった。家は70～80軒。秋山嘉十郎、平間丑蔵らの商店もあった。学校は今の北吉原神社付近にあったのが始まりで、次いで禅照寺付近に、それから敷生に移った。

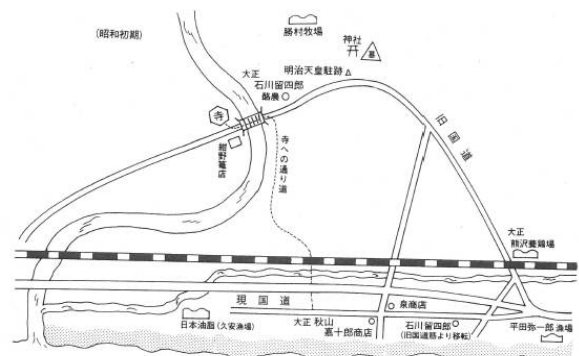
③ 北吉原駅の誕生

・昭和40年10月31日、大昭和製紙(株)白老工場正門前に階上形式駅舎の北吉原駅の開設式典が挙行された。同社が従業員通勤のため町と国鉄に働きかけ総工費1,800万円をすべて負担してできたが、昭和50年以降利用客が減少し55年から無人化された。

④ 大昭和と飲食店

・昭和34年、大昭和製紙(株)白老工場の誘致により工場建設が始まると工事関係者がどっと入り込み、そのための宿舎が建ち2,000人からの人で賑わった。36年頃には中通を中心に国道、浜側までの間に約50軒に膨らみ繁盛した。代表的な飲食店としては、富士、海月、三楽、アカシア、三福、マリちゃん、かど蛸、万竜など。40年代までが一番華やかであった。急造のバラック建てで老朽化が早く、建て替え期に入ると自然に淘汰され減少への道をたどった。

・大昭和製紙の開業は、当時漁業中心の一寒村にすぎなかった北吉原地区を工商漁業街へと著しく変貌させた。また、創業当時の社員は約600名、最大は昭和51年の1,330人で、全国5,200人の社員の25%に上るなど、同北海道野球部の全国都市対抗野球優勝・黒獅子旗獲得と相まって、本町の政治・経済・スポーツ文化を根底から牽引した。





萩野公民館



北吉原海岸



日本製紙社宅（旧大昭和社宅地区）



日本製紙体育館（旧大昭和体育館）



日本製紙北海道工場白老事業所



日本製紙北海道工場白老事業所（北吉原八幡神社から）



J R北吉原駅



十二間道路



フシコベツ川排水路（河口部）



フシコベツ川排水路（国道36号方向）



北吉原八幡神社鳥居



北吉原八幡神社



白老町立萩野小学校



白老町立白翔中学校（旧萩野中学校）



JR萩野駅



萩野神社



富岸中央海上地蔵尊





萩野・北吉原地区緩傾斜護岸



北吉原本町生活館



はまなすスポーツセンター



北吉原本町地区の町並み



白老港



白老港 インカルメンタル（眺望の広場）

編 集 民族共生象徴空間整備による白老町活性化推進会議

監 修 白老町教育委員会生涯学習課

問合先 仙台藩白老元陣屋資料館 TEL0144-85-2666